

本を読まれる方の心が 温かく 穏やかに 安らかに そして優しくなってくれることを心よりお祈りいたします。



渡部利之のPROFILE

1958年山形県小国町沢中地区生まれ。
ミレー友好協会正会員
美術団体BESETO常務理事
スペイン国立プラド美術館財団芸術会員

- 96年 山形県美術展受賞
- 05年 最優秀作家大賞受賞、蒙日芸術創世者大賞受賞、テオフィロス（神に愛されし者の意）芸術大賞受賞、光のアーティストグランプリ受賞（モネ生誕80周年記念）
- 06年 レッドボン芸術大賞受賞、世界平和最優秀作家賞受賞、神聖聖栄栄賞受賞
- 07年 BESETOソウル展大賞受賞、ミレー友好協会フランス本部展入選、国際平和芸術功労賞受賞
- 08年 第50回記念ミレー友好協会フランス本部展ポーモン・ハーグ市長賞受賞、ル・サロン会長賞受賞
- 09年 ミレー友好協会フランス本部展審査員特別賞受賞、日本国内最大市長賞受賞、BESETO北京展大賞受賞
- 10年 ミレー友好協会フランス本部展ヴァンセンヌ市長賞受賞、日本国内最優秀作家賞受賞、BESETOソウル展大賞受賞

○ふると小国町へ作品寄贈

『ふると永遠の輝き』(12.7.17)

○河北町へ作品寄贈

『希望の道』(14.2.4)

他国内外受賞多数

第9回日本自分史大賞優秀賞受賞作

「母のこと」



渡部利之

「母と永遠に対話を続ける親孝行の書」

まず渡部利之さんは画家であることをご紹介しなければなりません。この数年来数点の絵を見せて貰い、作品評を書かせて頂いた。その絵はいつも光に満ち、自然の景観をありのまま美しい緑の譜面でもとらえた素直な作品だった。自然の森や山がいつも想い出をたどるような、回想のタッチで描かれていることが特色だった。果たせるかなそれはすべて「母への想い出」に終結していることが後日判った。郷里の墓で眠っている優しい母への献堂の作品群であったのだ。

そしてここでご紹介する「母のこと」の書も、渡部利之さんが常に敬慕してやまなかった母の記憶をたどり、謙仰の心で記した貴重な追憶の本なのである。幼時から天に召されるまで、徹底して母上と利之さんとの血の通った温かいメモワールによって平穏に記され、母と子のひらなる対話で占められており、私は一気に読み終えて、まことに美しく、美しく人生を称えた、親孝行の手の書である…との感想をもった。

文・長谷川栄

